

2025年度

# 内科 (Stage1)

クリニカル・クラークシップ

# 2025年度 内科クリニカル・クラークシップ スタッフ

## 【クラークシップ・ディレクター】

呼吸器・感染症内科	小宮 幸作
消化器内科	水上 一弘
循環器内科・臨床検査診断学	高橋 尚彦
内分泌代謝・膠原病・腎臓内科	柴田 洋孝
腫瘍・血液内科	緒方 正男
脳神経内科	木村 成志
総合内科・総合診療科	塩田 星児

## 【アテンディング】

呼吸器・感染症内科	平松 和史
消化器内科	遠藤 美月
循環器内科・臨床検査診断学	篠原 徹二
内分泌代謝・膠原病・腎臓内科	吉田 雄一
腫瘍・血液内科	高野 久仁子
脳神経内科	増田 曜章
総合内科・総合診療科	堀之内 登

# 【内科 (Stage 1) 実習上の注意事項】

## 実習にあたり特に注意すること

- 1) 患者の“個人情報保護”を厳守すること
- 2) 診療文書の記載や電子カルテの操作にあたっては規定事項を遵守すること
- 3) 独断で病状説明や病名告知を行わないこと
- 4) 無断欠席・早退をしないこと。やむを得ず遅刻・欠席、早退する場合は必ず事前に担当教員へメールまたは電話で連絡すること
- 5) 実習に相応しい髪型・服装・姿勢・態度をとること。派手なアクセサリ・長い爪・強い香水・派手な服装・不潔な靴等、患者・スタッフに不快を与えるものは禁止する。
- 6) 患者には丁寧な言葉使い、誠実な態度で応接すること
- 7) 挨拶を欠かさず、患者・スタッフに敬意を持ってチーム医療に参加すること
- 8) 自身の健康に気をつけ、万全の体調で実習に臨めるように体調管理すること。体調不良の場合は速やかに担当教員へ報告する。
- 9) 診察前後には手指の衛生的な手洗いを行うこと。流行性感染症（新型コロナ等）罹患時は担当教員に即連絡し患者に接しないこと。

## 身につけるもの、準備するもの

- 1) “清潔な” 白衣
- 2) 名札
- 3) 聴診器、ペンライト、打鍵器などの診察用具
- 4) 筆記用具・ノート類
- 5) N95マスク（呼吸器・感染症内科における西別府病院の実習に際しては、事前に、学務課より購入すること）

## その他の注意事項

- 1) 実習前に、到達目標、スケジュール表に目をとおすこと
- 2) 実習初日（月曜日）の集合時間、場所は、スケジュール表で確認すること
- 3) **臨床実習生（医学）**として、チーム医療の責任ある一員として参加すること

# 内科共通の一般目標

## ー全期間を通じて身につけるべき事項ー

### 一般目標

内科領域における総合的診療能力を身につけるために、病棟の受持ち患者、および外来患者の医療面接、身体診察をとおした情報収集をもとに、診断を考え、治療計画を立てることを学ぶための知識、技能、態度を身につける。

#### 【問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療】

到達目標：

- 1) 基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる
- 2) 得られた情報をもとに、問題点を抽出できる
- 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる
- 4) 診断・治療計画が立てられる
- 5) 科学的根拠にもとづいた医療（EBM）を実践できる

#### 【医療面接】

到達目標：

- 1) 礼儀正しく患者（家族）に接することができる
- 2) プライバシーへの配慮をし、患者（家族）との信頼関係を形成できる
- 3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる
- 4) 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実施できる。

#### 【診療記録とプレゼンテーション】

到達目標：

- 1) 診療録を POMR（Problem Oriented Medical Record：問題志向型診療録）形式で記載できる。
- 2) 毎日の所見と治療方針を SOAP（Subjective, Objective, Assessment, Plan）形式で記載できる。
- 3) 受持ち患者の情報を診療チームに簡潔に説明できる。

## 各講座での“症例発表”

各講座の2週間の実習期間で担当した1症例について講座内で発表する。

1. 発表方法はスライド発表を含め、各講座の方針に委ねる。
2. 発表内容は、症例提示（病歴、身体所見）、検査・画像解説、考察などを含めること。また質疑応答を行うこと。